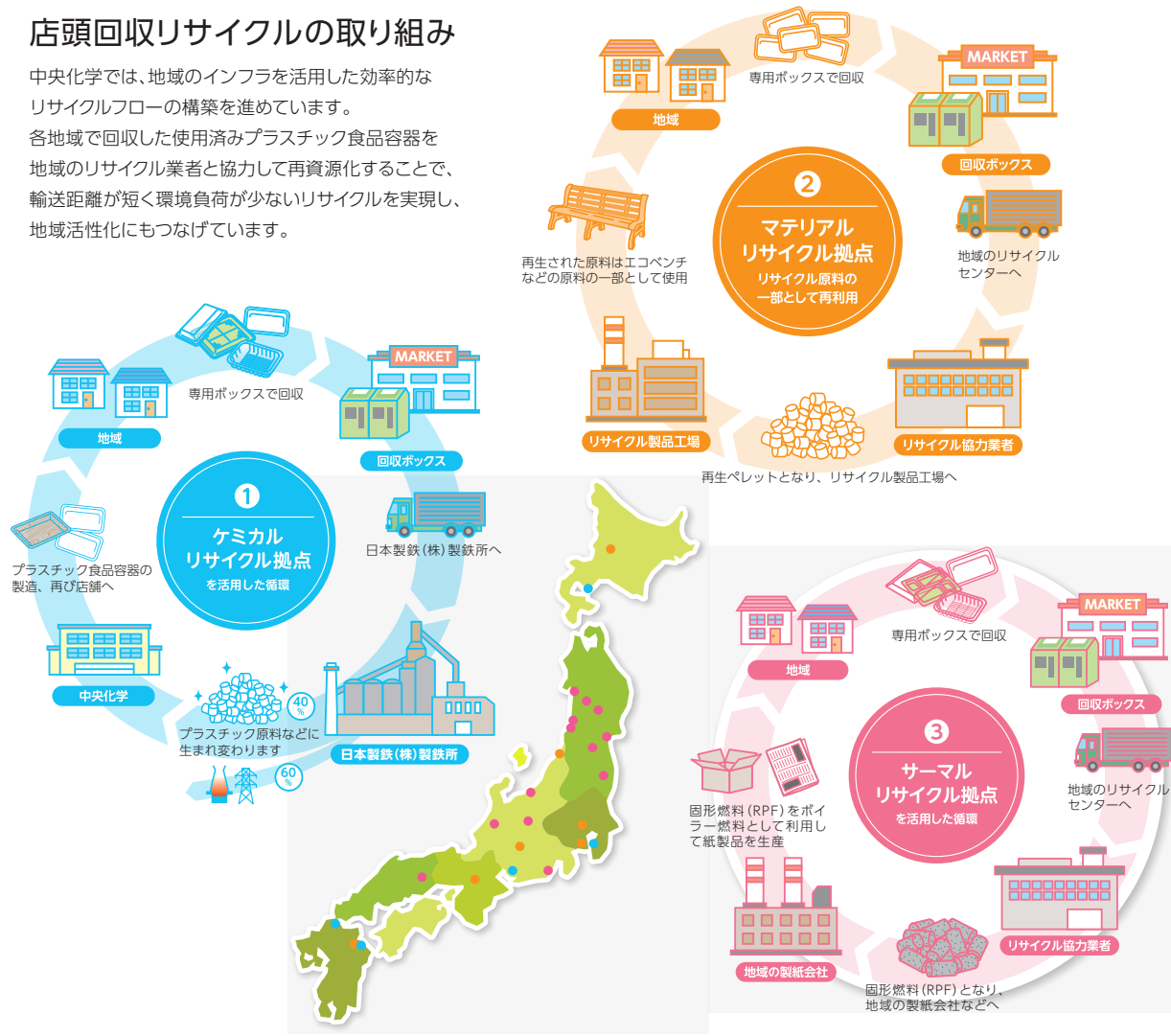


地域と連携した 3つのリサイクル

店頭回収リサイクルの取り組み

中央化学では、地域のインフラを活用した効率的なリサイクルフローの構築を進めています。

各地域で回収した使用済みプラスチック食品容器を地域のリサイクル業者と協力して再資源化することで、輸送距離が短く環境負荷が少ないリサイクルを実現し、地域活性化にもつなげています。



株主通信

第60期 中間決算報告

2019年 4月 1日 ▶ 2019年 9月 30日

- トップメッセージ
株主の皆様へ
- 財務諸表/会社概要・株式情報
- トピックス
成長市場へのアプローチ
- リサイクル
地域と連携した
3つのリサイクル

全員創意 変える意識 変わる中央化学

中央化学株式会社
代表取締役社長

近藤康正



株主の皆様へ

株主の皆様には、当社グループへのご理解と共に、格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社グループ第60期第2四半期(2019年4月1日から2019年9月30日)が終了致しましたので、ここに経営の概況と中間決算についてご報告申し上げます。

— 上半期の振り返り

第58期(2017年度)からの業績回復を目指し、全社一丸となって「構造改革」に取り組み、第59期(2018年度)には3期ぶりの黒字化を実現しました。

今期は、事業基盤を強固にし、継続的に収益改善を果たすべく、生産、販売、物流の機能強化及びその連携を強める「オペレーション改革」に取り組んでおります。

販売ポートフォリオの見直し等により今期上半期の売上高は計画に対して、未達ではありますが、生販物機能強化、連携強化は着実に進んでおり、利益水準はほぼ計画に近いものとなりました。

事業再編が完了した中国子会社においては、強くスリムな経営、生産効率の改善、品揃え拡充等により収益が大きく改善しております。

今期の当社スローガンは、「全員創意、変える意識、変わる中央化学」です。

そのスローガンに沿って、私が期初に社員に向けて発信し

た行動指針は、

- ・正しいことをする
- ・「言える化」と「聴ける化」を進める
- ・人を大切にし、人を育てる

の3点であります。当たり前のことではありますが、それがこれまで必ずしも十分であった訳ではなく、日本8工場、8営業拠点、中国3工場を訪問し、対話を通じて全社員に私のメッセージを伝えてまいりました。

また、「お客様第一主義」、「現場第一主義」を掲げ、生産、販売、物流の機能強化に加え、現場の活性化を促してまいりました。

いずれも今期にとどまらず、当社にとりまして永遠に取り組むべきことであり、着実に改良、改善を果たしていきたいと思っております。

— 下半期に向けて

米中貿易摩擦等に起因する世界経済の停滞、いよいよ出生数が90万人/年を割るという人口減少・高齢化問題、消費増税に伴う消費の先行き不透明感、さらに広い範囲で大きな被害をもたらした台風等の自然災害の頻発、パッケージング業界を取り巻く経営課題は重くなっています。

また、食品ロス、二酸化炭素排出、海洋プラスチックごみ等の環境問題を踏まえ、事業への向き合い方、変化への対応の仕方が一段と難しくなっています。

こうした事業環境の下、この下半期については、引き続き「オペレーション改革」を強力に推進すると共に、2つの事業戦略、「汎用容器事業の基盤強化」と「成長市場へのアプロ

チ」を深掘りしてまいります。

具体的には、前者については当社が強みを持つ素材に注力し、お客様向け提案力を強化すること、後者についてはリサイクル製品を含め、環境対応素材・製品の開発・販売を加速することに取り組みます。

例年2、3月に東京、大阪で展示商談会を開催してまいりましたが、来年2～4月にかけて、札幌、仙台、名古屋、広島、福岡でも展示商談会を開催し、当社事業戦略のご説明、新製品・注力製品のご紹介をさせて頂くと共に、お客様の声を現場でお聞かせ頂く所存です。

中国での収益力のさらなる向上に加え、日本に比して欧米では環境動向に敏感であることより、環境対応製品の拡充、木製製品への参入等に取り組んでまいります。

— 最後に

次から次へと新たな経営課題が出てくる中、「オペレーション改革」を着実に進めると共に、人手不足、物流タイト化等も踏まえメーカーとしての真の実力を上げ、さらなる業績改善に取り組んでまいります。

その為に必要な事業基盤の強化、財務体質の強化を図るべく、当中間決算における配当につきましては、誠に遺憾ではございますが、見送りとさせて頂きたく存じます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますと共に、ご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

業績改善を着実なものとし、さらに将来に向けて全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

財務諸表

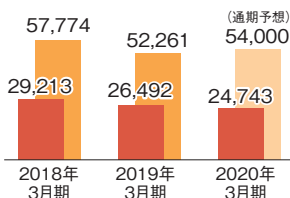
収益の状況(連結)

■ 第2四半期 ■ 通期 単位:百万円

売上高

24,743百万円

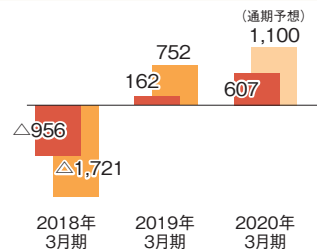
(前年同期比1,748百万円減)



営業損益

607百万円

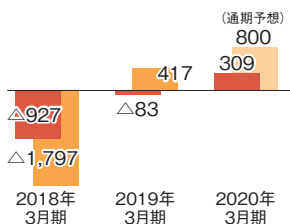
(前年同期比445百万円増)



経常損益

309百万円

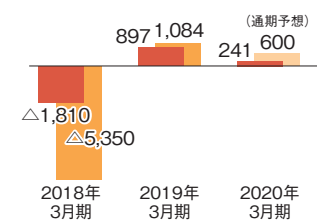
(前年同期比393百万円増)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益

241百万円

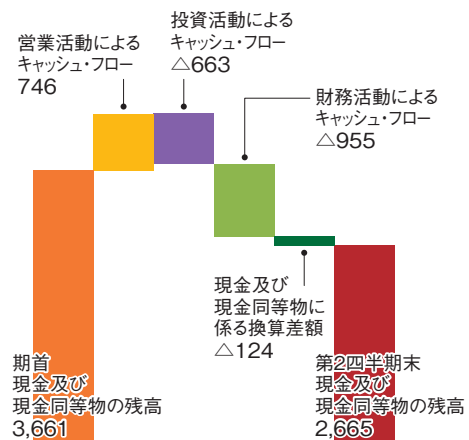
(前年同期比656百万円減)



キャッシュ・フローの状況(連結)

単位:百万円

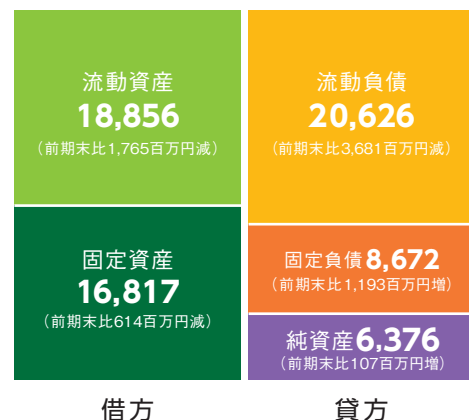
(2019年4月1日~2019年9月30日)



資産の状況(連結)

単位:百万円

(2019年9月30日現在)



会社概要・株式情報

会社概要

(2019年9月30日現在)

商号	中央化学株式会社
設立年月日	1961年1月30日 (創業 1957年)
資本金	72億1,275万円
決算期	3月31日
従業員数	1,744名(連結)

役員一覧

代表取締役社長	近藤 康正
取締役	森本 和宣
取締役	早澤 幸雄
取締役	竹内 修身
取締役	萩原 剛
取締役	松本 吉雄
常勤監査役	大吉 正人
監査役	山口 吉一
監査役	鳥居 真吾
監査役	中村 竜一

株式情報

(2019年9月30日現在)

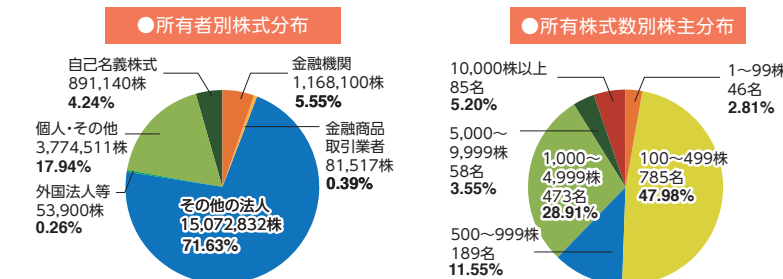
株式の概要

発行可能株式総数	40,002,000株
発行済株式の総数	21,042,000株
株主数	1,636名

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
公告の方法	電子公告(当社ホームページ) http://www.chuo-kagaku.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主構成 ※2019年9月30日現在の株主名簿上での名義で記載しております。



成長市場へのアプローチ

市場のニーズ、困りごと

環境問題

食品ロス・CO₂排出
海洋ごみ

社会構造

高齢化・人口減少
人手不足

ライフスタイル

個食・中食
高齢者向け配食

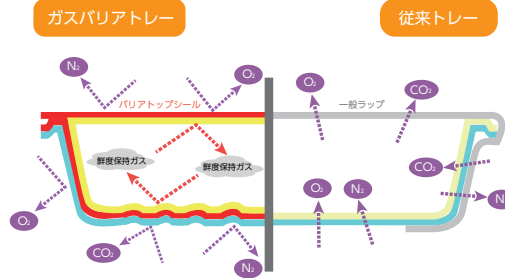
機能、提案力を高め、成長市場へアプローチ



食品ロス削減のための

ガスバリア容器

ガスバリア容器とは、鮮度保持ガス(窒素・酸素・CO₂の配合を調整したもの)をフィルム容器内に密閉し、食品の酸化・菌の増殖を抑制することにより、従来品よりも鮮度を保持できる容器のことです。

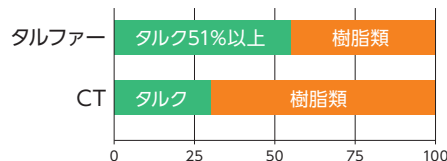


タルクの活用でCO₂削減

タルファー

石油資源使用率 **25% ↓ 減**

■タルク配合率



新素材「タルファー」は、タルクを活用した環境に優しい素材です。



バイオマスマーク

バイオマス由来成分を
含有する素材

バイオCT

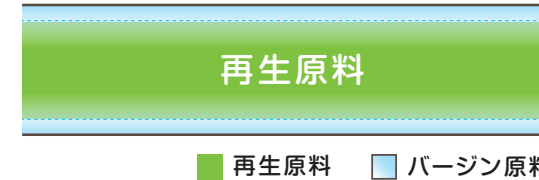
バイオマス由来成分を含有する素材である「バイオCT」は、従来のCTよりもCO₂排出量を減らすことができます。

このバイオCTは、「一般社団法人日本有機資源協会」の認定するバイオマスマークを取得しています。

環境負荷低減素材



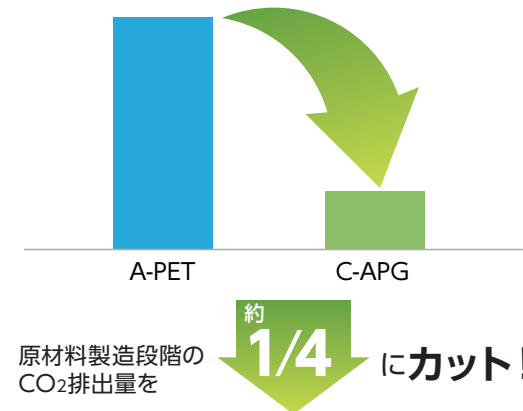
C-APG断面図



環境負荷低減素材のC-APGは、回収された使用済みPETボトルをリサイクルし、それを再生原料として、バージン原料で挟む2種3層構造にしています。再生原料の利用と高い安全性を実現しました。

これは業界の自主基準に適合しており、食品に直接接触する用途に使用可能な高い安全性を確保しています。

原材料製造段階のCO₂排出量



原材料製造段階のCO₂排出量を **約1/4にカット!**

C-APG製品ラインナップ

SDL

ぶどう用容器の「SDL」がリリースされました。SDLはぶどう以外にも、ミニトマトやアメリカンチェリーなどを入れることができる汎用性が高い容器です。



【SDLの特徴】

- ①側面の凹凸：照明の光をキラキラ反射して、売り場でも目立たせられます。
- ②水切り孔：ぶどうを容器に入れたまま洗い、水切りまで行えます。

青果



トルク



鮮魚



精肉

